



二つのL架構による3つのヒロティが喜場所を作る

大きな病院が隣接した住宅前に立つ家族2人の住居である。計画敷地周辺は古くは緩やかな丘陵らしの美しい丘であったが、設計当初は隣接する大病院のボリューム感と前庭道路が曲がり角であることから距離感が否めなかった。このような周辺環境の中で、緩やかな高低差のある地形を活かして遠く風景まで見渡せるような狭い良い住まいを作るのが、この住宅の目的となることであった。

そこで、この計画では斜面を包み込むような形でL型の架構ボリュームを2つ配置し、その隙間に普通のアクセス通路と階段を穿ち水平スリット窓を包める構成とした。このことにより、庭と庭、遠景と近景が直接触れ合うような感じになった。

2つのL架構にはそれぞれ床スラブが下がる形で取り付くことで内部の空間となり、また、それらのスラブが伸びて庭となることで、内と外の空間をつなげている。箱型ではないL型架構の連なりとスリットがもたらす空間は、均質な住宅が向き合う距離の暮らしに開放さをもたらす手帳となるであろう。



建築主	匿名希望
所在地	東京都中央区
建築年	2019年
建築家	株式会社 建築家 建築家
建築費	約 2,000 万円
完成面積	約 100 ㎡
延床面積	約 150 ㎡
床面積	約 100 ㎡
容積率	約 100%
用途	住宅

